

第2回 アジアヘッドクォーター特区と
京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の連携に関する幹事会
議事要旨

日時：平成24年11月14日（火）14：00～16：00

場所：永田町合同庁舎7階特別会議室

議事要旨：

○これまでの取組と連携方策について

・川崎市・神奈川県・大田区・横浜市より、企業・研究活動を支える拠点形成をテーマに、これまでの取組と連携方策について説明があった。

【委員からの主な意見】

・殿町3丁目地区の拠点は、臨海工業地帯の21世紀のトリガーになるプロジェクトとして、土地区画整理事業を活用しながら、段階的に先行土地利用エリアから研究機能の整備に取り組み拠点形成を進めている。外資系の企業・研究機関等の意見では、様々なニーズが求められているが、今後、殿町地区ではラボに特化し、ラボに必要な機能は地区内に整備して、大規模な交流施設や宿泊機能等は周辺で整備するなど、両特区で機能分担することで、効率的にニーズに応えられる。

・一言で交流施設といってもいろいろな形態があるので、そういったものを効果的に配置していくため、議論を深めていく必要がある。

・殿町地区では、専門的な学会等150人規模クラスの交流機能のニーズに応え、より大きな規模の交流空間や賑わい機能については周辺地区で整備するなど、連携を念頭に土地利用の方針を見直すという考え方をもっている。

・羽田空港跡地の土地利用計画として、第1ゾーンは産業交流施設・多目的広場・駅前広場、第2ゾーンは24時間国際拠点空港化に伴う宿泊施設・複合業務施設という計画になっており、羽田空港の機能の連携という意味では国際ターミナル・第2ゾーン・第1ゾーンと連携した一体的な方向性のもと整備を進めることが重要である。第1ゾーンでは、羽田空港跡地の特性を活用して、産業交流のための機能を集積させ、新市場・新技術の創造につなげていくことが重要と考え、施設整備に関する検討を進めている。

・パシフィコ横浜は医学系の国際会議の開催件数が全国1位という実績があり、医学・医療関連の国際会議の開催を通じて、ライフイノベーション拠点としての情報発信やバイオ関連の国際的な展示会・相談会などで経済活性化に繋げていくことができる。

・数時間の滞在時において、空港近くでのフェースとフェースでの打ち合わせというニーズが比較的多く、空港の直近で交流空間が必要であり、大田区の空港跡地の活用等が考え

られる。また、大規模な国際会議などで数日要するコンベンションはみなとみらい等で、というのが理想的な役割分担と思われる。

- ・産業交流施設の検討を進める上で、具体的にどのような利用形態・ニーズがあるかをもう少し把握する必要があるが、このような調査はなかなか自治体レベルでは難しい。

- ・羽田空港跡地第2ゾーンの開発を行う際にも、ホテル機能に付随する機能や、様々な事例、短時間ミーティングのニーズ等の検討が必要であると思われる。一方で、現在の空港ビルディングにも貸し出しできる会議室はあり、今すぐ対応可能なものの活用も、あわせて考える必要がある。

- ・ヨーロッパでは、特にサブの空港において、空港と産業を密接に捉え、さまざまなイベント等に取り組んでいる例もある。

- ・MICE 機能に関する本協議会の検討対象範囲については、当該エリアの連携との関連性を踏まえて、必要な議論を行うことが妥当である。

- ・京急蒲田にある大田区産業プラザは、国内の各地から飛行機で集まり、展示、会議、講習会、企業のプライベートショーなどを行い、空港からすぐ帰るという使われ方がされており、施設の稼働率は高い。今後計画している羽田の産業交流施設の展示場・会議場の規模でも十分ニーズがあると考ええる。

- ・両特区の土地利用のスケジュール感には差異があり、国際情勢を踏まえると、スピード感ある整備が必要である。一方で、当面の需要への対応として国内線ターミナル内にある会議室等の活用が考えられないか検討が必要である。

- ・第2ゾーンの多摩川のところにある棧橋では、現在観光用として屋形船・遊覧船等の活用がされているが、さらに、総合特区の規制緩和において、不定期で、国際会議等で東京に訪れた外国人を羽田から MICE 会場までの舟で運ぶことができないか等の提案があり、現在実現に向けた手続きが進んでいる。

○今後の進め方について

- ・第3回幹事会は、特区间連携を支えるインフラ整備をテーマに議論を行うことを確認した。